



旧亀山城多門櫓

「平成の大修理」完成

「城下町かめやま」のシンボルである旧亀山城多門櫓。平成の大修理により、黒い板壁が真っ白な漆喰の大壁となり、江戸時代に建てられた当時の姿に復原されました。春を迎え、4月7日(日)には、完成記念式が開催されます。新しくなった旧亀山城多門櫓に足を運んでみませんか。

旧亀山城多門櫓データ

(平成の大修理後)

- <構造> 木造平屋建て土蔵造り
入母屋造り本瓦葺
- <面積> 118.8㎡
- <高さ> 6.56m(最高の部分)



■往時の姿を取り戻した多門櫓

旧亀山城多門櫓は、伊勢亀山城の遺構の一つで、県内では城郭の石垣上に残る唯一の櫓建築として、石垣とともに昭和28年に「三重県史跡」に指定されています。

平成19年4月15日に三重県中部で発生した地震では、石垣の一部が崩落する被害を受けました。市では地震発生以降、崩れた石垣の修復とともに、多門櫓の復原修理に取り組んできました。平成23年8月から1年半をかけて慎重に進めてきた復原修理工事が、このほど完成し、4月7日(日)からは内部を含めた公開を行います。

旧亀山城多門櫓「平成の大修理」の事業経過

平成21年度	多門櫓修理調査・設計業務委託
平成23～24年度	旧亀山城多門櫓修理工事
平成23～24年度	旧亀山城多門櫓修理工事監理業務委託
平成23年度	亀山城多門櫓曲輪復原工事
平成23年度	亀山城多門櫓発掘調査業務委託等

総事業費 77,958,026円

【その内、国の歴史的環境形成総合支援事業補助金 36,573,300円】

■保存整備が進む亀山城周辺

亀山城周辺の保存整備は、「城下町かめやま」を形づくる城郭・武家屋敷・宿場のそれぞれにおいて、歴史的な建造物等を保存整備することで、地域の歴史的な風致を維持・向上させるとともに、亀山城周辺の散策ルートを整備することを目的としています。

平成17年度以降、城郭地区では、「二之丸帯曲輪復元整備」、「亀山公園外周園路整備」、「旧亀山城多門櫓石垣復旧復元」などを、武家屋敷地区では「亀山藩主石川家家老加藤家屋敷跡公有化及び環境整備」、「西之丸外堀復元展示」を、宿場地区では「旧館家住宅改修整備」を行ってきました。一連の事業は、平成21年1月に国の認定を受けた「亀山市歴史的風致維持向上計画」に基づき、国の支援を受けながら進めています。



二之丸帯曲輪復元整備

旧亀山城多門櫓「平成の大修理」の完成により、亀山城周辺における散策ルートの整備が大きく進み、「城下町かめやま」のシンボルとしての役割が期待されます。



亀山城多門櫓の歴史

「平成の大修理」に伴う調査によって、亀山城多門櫓が建築された後、どのような変遷をたどってきたかが明らかになりました。

多門櫓は、亀山藩主が石川氏であった18世紀の後半に建築され、江戸時代の嘉永7(1854)年に伊賀で発生した大地震により大きな被害を受け、屋根の修理が行われました。

明治6(1873)年には、廃城令により2人の旧藩士に払い下げられ、木綿段通の授産場として使用されることになりました。このとき、亀山城内の建物としては唯一取り壊しを免れたことにより、「城下町かめやま」のシンボルとなっていくます。

以後、「亀山同盟報徳会」「亀山神社」「亀山城保存会」と所有者・管理者は変わりますが、その都度、維持のための修理等が行われました。そして、昭和45(1970)年には亀山市の所有となっており、数度の小修繕を経て文化財として展示・公開されてきました。

多門櫓は建築されてからの200年余りの歴史の中で、少なくとも5回の大修理が行われてきました。これらは建物を維持・活用するためのものであり、建築当初の姿への復原を目指す本格的な復原修理は今回が初めてであったことから、今回の工事を「平成の大修理」と命名しました。

「平成の大修理」は、その時々の亀山市民によって取り組まれてきた、「城下町かめやま」のシンボルを守る活動の集大成といえるものです。

所有者・管理者	用途	修理等の履歴
延享元(1744)年 亀山城主(石川氏)	本丸東南隅櫓 (前身建物)	建築 (18世紀後半)
明治6(1873)年 旧藩士(個人)	本丸東南隅櫓 武具倉庫	嘉永7(1854)年 伊賀地震による被災 安政3(1856)年 鬼瓦の取替え 安政の修理
明治31(1898)年 亀山同盟報徳会	失業士族のための 木綿段通の授産場	明治20～30年代 旧藩士・亀山同盟 報徳会による修理 明治の修理
昭和19(1944)年 亀山神社	集会場 学校校舎等	大正6(1917)年 県「旧蹟保存費」による 修理 大正の修理
昭和43(1968)年 亀山城保存会 (管理者)	昭和28(1953)年 三重県史跡に指定	昭和22(1947)年 亀山神社による修理 昭和の修理①
昭和45(1970)年 亀山市	集会場 展示施設	昭和44～45年 亀山城保存会による修理 昭和の修理②
		昭和58・60・61・62年 平成6・13年 小修繕
		平成23～25年 平成の大修理

復原修理工事の過程

①軸組の修理

柱や梁、小屋組など、ほぼ建築当初の部材が残存していたため、長い年月によって腐ったり破損した箇所のみ取り替えました。



②内部空間

建てられた当時は、土間で天井のない吹き抜けであったことが分かりました。出入口や窓も、武具倉庫として建てられた当時の状態に戻し、仕切りのない大きな部屋で、暗い空間となりました。また、床下の遺構を保護するため、新たに板床を設けました。

③壁の修理

調査に基づき、建てられた当初の工法で、白漆喰塗りが再現されました。また、軒裏も白漆喰により美しく仕上げました。



④屋根

屋根の軒先は、石垣に雨水が落ちた痕が確認され、その先端を修理前より30cmほど先に伸ばしました。屋根瓦は、本瓦葺に復原しました。

現場説明会を実施しました

工事の進捗に合わせて、5回の現場説明会を行い、延べ800人を超える人たちに参加していただきました。



旧亀山城多門櫓「平成の大修理」完成に伴う関連行事

●完成記念式

工事の完成と内部公開の開始を記念して、完成記念式や説明会などを行います。完成記念式では、市民参加でテープカットを行う予定ですので、ぜひご参加ください。

とき 4月7日(日)

午前10時～11時

※亀山城桜まつりと同時開催

問合先 市民文化部文化振興局

まちなみ文化財室(☎96-1218)

●歴史博物館 第23回テーマ展示 第8回文化財調査速報展示 伊勢亀山城

～多門櫓から亀山城を見る～

とき 5月26日(日)まで

午前9時～午後5時

問合先 歴史博物館(☎83-3000)

●今後の公開など

亀山城多門櫓の外部はすでに公開し、夜間は午後10時までライトアップしています。内部は、4月7日(日)以降の土・日曜日、祝日(午前10時～午後4時)に公開します。

また、マイタウンかめやまで放送した「亀山城多門櫓 平成の大修理」全番組のDVDを、4月12日(金)から企画総務部広報秘書室で貸し出します。

問合先 市民文化部文化振興局

まちなみ文化財室(☎96-1218)